



神山天文台マスコットキャラクター  
ほしみ〜るちゃん®

## Schedule 今月の開館スケジュール

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5 オープンキャンパス 施設見学
6 オープンキャンパス 施設見学  企画展最終日	7 ×	8 ×	9 ×	10 ×	11 × 山の日	12 ×
13 ×	14 ×	15 ×	16 ×	17 ×	18 ×	19 ×
20 ×	21 ×	22 × 伝統的七夕	23 ×	24 ×	25 ×	26 ×
27 ×	28 ×	29 ×	30 ×	31 ×		

施設見学 9:00～16:00  
土曜日は天体観望会実施日のみ 14:30～17:30

天体観望会 19:00～21:00  
(定員あり/要予約)

休館日

月の形 (満月・新月・半月および観望会で月が見えるとき)

事務室閉室日  
(問い合わせ等対応不可)

### 施設見学

1階常設展示フロアでは企画展「隕石 × 小惑星」(5/12～8/6)、また、3階では荒木望遠鏡(国内私立大学最大口径の反射式望遠鏡)の見学が可能です。(展示替えのため8/7～8/31は休館します。)

### 天体観望会

荒木望遠鏡や小型望遠鏡で天体を観察ことができ、天文台専門スタッフが望遠鏡や天体について解説を行います。  
また、宇宙の3D映像上映会を開催します。(12、19、26日は大学一斉休業のため休止)

## よくある質問 ?

観望会でよく聞かれる質問にお答えします★

### ? 荒木望遠鏡で「流れ星」は見えるの?

望遠鏡は狭い範囲を拡大するため、たとえば天の川の中にある目に見えない暗い星を見ることなどは得意なのですが、流れ星はいつ、空のどこに流れるかわかりません。望遠鏡を向けている先に偶然流れることもあるかもしれませんが、それを待つのはとても効率が悪いです。流れ星は道具を使わず、「街明かりの少ないところ」で「空のできるだけ広い範囲」を「なるべく長い時間」眺めるのがオススメです!

### ? 伝統的七夕(旧暦七夕)ってなに?

七夕といえば、7月7日。しかし、日本で明治6年まで使われていたカレンダーは、月の満ち欠けを基にしたもの(旧暦や太陰太陽暦といえます)でした。現在のカレンダーとは毎年日付がずれてしまいますが、七夕や十五夜のお月見の行事などは、月の形が合う旧暦で行う方がより風情が出ますね。旧暦七夕は必ず月齢6のころになり、上弦前の月が天の川の渡し舟に見立てることもできます。今年の伝統的七夕は8月22日です。

### 企画展

## 隕石 × 小惑星

### 太陽系の起源を探る

5月12日(金)～8月6日(日)開催!

私たちの太陽系はいつ、どのようにして誕生したのでしょうか。太陽系が誕生した当時の記憶は、小惑星や彗星といった太陽系小天体に残っているほか、地球にいながら手に取ることができる「隕石」にも残されています。本企画展では、実験室での隕石の分析と小惑星の地上観測、宇宙探査を結びつけ、隕石から得られる太陽系の起源について紹介します。

詳細・関連イベントなどは、企画展のWEBページ(右QRコードから)をご覧ください。



瞳の約5万倍

荒木望遠鏡は国内私立大学最大の大きさを誇る、反射式望遠鏡です!

人間の瞳は約6mm、荒木望遠鏡の主鏡はその約200倍以上の1.3mだから、

人間の瞳の約5万倍の面積で多くの光を集めるってことだね!

たくさん光を集められるから、肉眼では見えない暗い天体も見られるのかな?

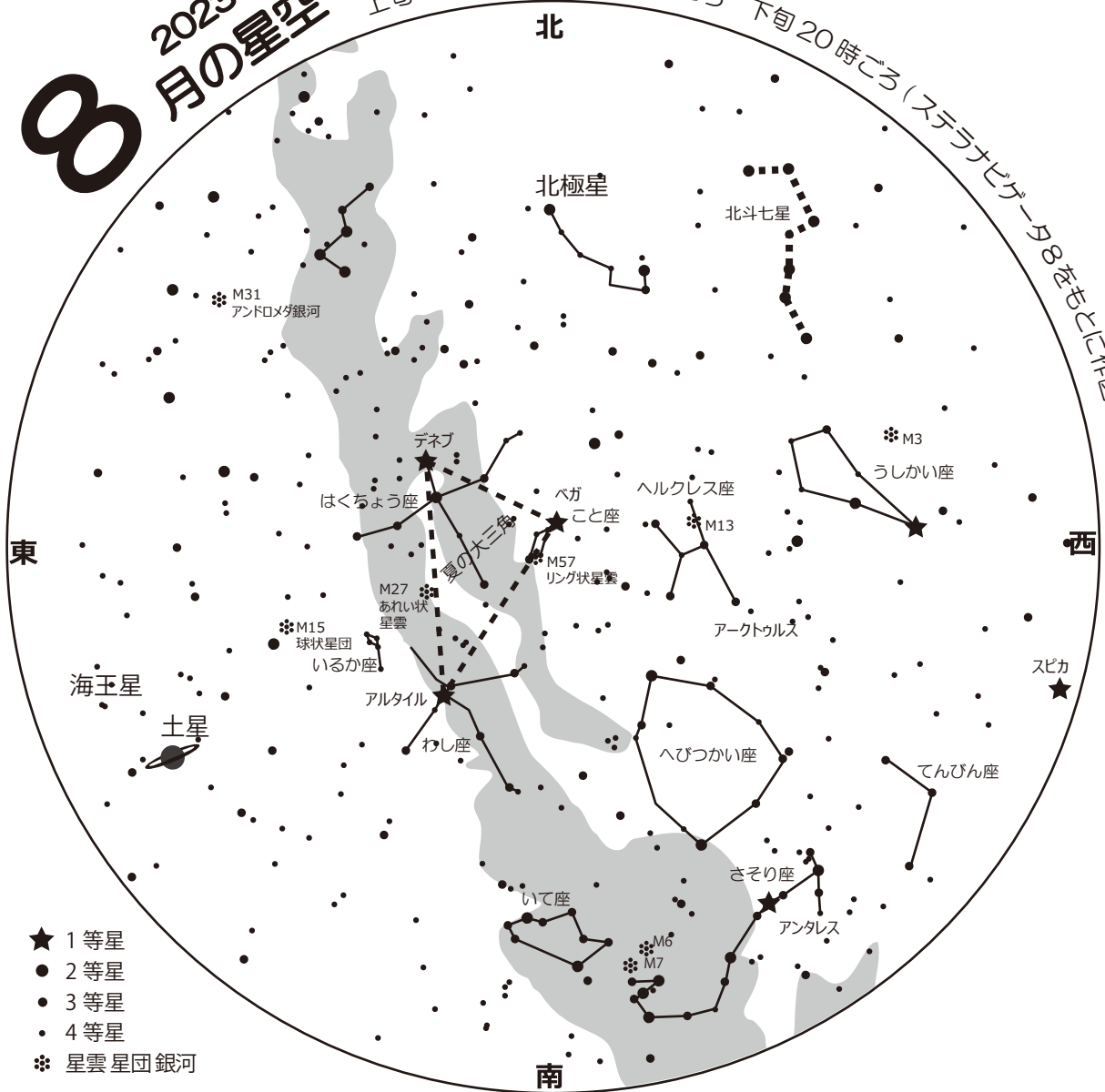
天体観望会に参加して確かめてみよう!

タルダ隕石(神山天文台所蔵)

# 2023年 8月の星空

## 2023年8月 見ごろの天体

上旬 22時ごろ 中旬 21時ごろ 下旬 20時ごろ (ステラナビゲータ8をもとに作図)



- ★ 1等星
- 2等星
- 3等星
- 4等星
- ※ 星雲 星団 銀河

### 8月13日未明 ペルセウス座流星群が極大

毎年8月お盆の時期に極大を迎えるペルセウス座流星群は、毎年安定して流星が見える、3大流星群の1つです。今年は8月13日の17時頃に極大(ピーク)を迎えるうえ、月明りもほとんどなく、条件としては最良です!「街明かりの少ないところ(周囲の安全に注意!)」で「なるべく空の広い範囲(寝転ぶのもおススメ!)」を「長い時間(夏休みだから一晩中OK!?)」眺めていると、多くの流星に出会えるかもしれません。また、極大日(13日)の前後数日も流星は流れます。天気の良い日を狙って楽しんでくださいね。

★夏の三角形(なつのだいさんかく): The summer triangle  
はくちょう座のデネブ、わし座のアルタイル、こと座のベガの3つの明るい星を結んで描かれる大きな三角形は夏の三角形と呼ばれています。ベガとアルタイルは、七夕の伝説における「織姫」と「彦星」です。

★二重星(にじゅうせい): Double star  
重星は、肉眼で見ると1つの星ですが、望遠鏡で見ると2つの星に見えます。夏に見られる代表的な重星には、はくちょう座のアルビレオ(金色と青色の2つの星が寄り添って見える)、さそり座のβ星(爽やかな青いペア)があります。こと座には、二重星がさらに2つずつの二重星となっている、ダブル・ダブル・スターと呼ばれる星もあります。

★惑星状星雲(わくせいじょうせいうん): Planetary nebula  
太陽程度の重さの恒星は、一生の最後に水素ガスを使い果たして赤色巨星となった後、外側のガスを周囲に放出します。この放出されたガスが輝いて見えるのが惑星状星雲です。望遠鏡で見たときに、まるで惑星のように丸くほんのり色づいていることから、このような名前がついています。こと座にはリング星雲と呼ばれる惑星状星雲M57があり、望遠鏡で見るとドーナツのような形を見ることができます。

★球状星団(きゅうじょうせいだん): Globular cluster  
球状星団は、数十万の恒星の集まりです。私達の銀河系の中には、約150個の球状星団があり、球状星団の中の星たちは非常に高齢で、100億歳以上の星もたくさんあります。夏には、ヘルクレス座のM13、りょうけん座のM3、へびつかい座のM5などの球状星団が見られます。

★土星(どせい): Saturn  
太陽系の惑星で木星に次いで2番目に大きい土星は、大きな環が特徴的などとも美しい天体です。望遠鏡を使うと環に加えて土星の周りを回る衛星も見ることができます。土星の環は、主に直径数cmから数mの氷の粒の集まりで、ところどころに隙間が見られます。環の厚みは数10mから数100mほどしかありません。